

紅葉山33号遺跡出土の「漆塗り弓（文様入り）」調査報告

I. 資料調査

（1）石川県金沢市 中屋サワ遺跡

調査資料：飾り弓・白木弓（縄文晩期）約80点

所 蔵：金沢市埋蔵文化財センター

目 的：飾り弓、白木弓のいずれも木質部分の残る状態で出土した資料の実見をとおして、弓本来の形状、製作技術、樋、弓の先端部、漆塗り弓の塗膜の状態、装飾、糸巻きの特徴などを把握するため。（日本海沿岸側に位置する遺跡で、遺存状態の良好な弓が多数出土していることから中屋サワ遺跡出土品を対象とした。）



写真1 金沢市中屋サワ遺跡出土 飾り弓（縄文晩期）
（部分撮影）巻きつけ・樋の確認



写真2 金沢市中屋サワ遺跡出土 漆塗り弓（飾り弓）（縄文晩期）
（常設展示、部分撮影）巻きつけ・樋の確認

（2）北海道千歳市 キウス4遺跡

調査資料：漆塗り弓

所 蔵：北海道立埋蔵文化財センター

目 的：北海道内の遺跡から出土した漆塗り弓の資料調査（比較調査）



写真3 千歳市キウス4遺跡 漆塗り弓（縄文後期）
（部分撮影）表面観察

(3) 北海道北見市 常呂川河口遺跡

調査資料：縄文晩期～続縄文文化前半期の副葬品（常設展示ほか）

アイヌ文化の弓、ほか（常設展示ほか）

所 蔵：北見市ところ遺跡の森

目 的：土器にみられる渦巻文の実見、装身具（玉類、環、管玉など関連資料）の実見
北海道内の遺跡から出土した帰属時期の異なる弓の実見等



写真4 北見市常呂川河口遺跡
土器（縄文晩期）常設展示



写真5 北見市常呂川河口遺跡
玉類（続縄文前半）常設展示



写真6 北見市常呂川河口遺跡
弓ほか（アイヌ文化（18世紀初頭以前））常設展示

(4) 北海道恵庭市 柏木B遺跡

調査資料：漆塗り弓

所 蔵：恵庭市教育委員会

目 的：北海道内の遺跡から出土した漆塗り弓の資料調査（比較調査）



写真7 恵庭市柏木B遺跡 漆塗り弓（縄文後期）
（部分撮影）表面観察

(5) 分析調査（関連調査）

令和6年度国立アイヌ民族博物館プンカラ共同研究（～2025年3月まで ※継続中）

石狩市紅葉山33号遺跡出土「漆塗り弓（文様入り）」の調査研究

・X線CT装置や高精細画像による撮影、形状計測や断層画像などの基礎資料による分析

Ⅱ.「紅葉山33号遺跡出土の漆塗り弓（文様入り）」の概要

1 名称

紅葉山33号遺跡出土の「漆塗り弓（文様入り）」

2 種別

有形文化財（美術工芸品／考古資料）

3 員数

1点

4 所有者・管理者

石狩市・石狩市教育委員会

5 保管の所在地

いしかり砂丘の風資料館

6 文化財の概要

（1）由来

紅葉山33号遺跡は、石狩市花川南6条5丁目の花川南公園内に位置する続縄文文化前半期の墓地である。諮問の対象とする「漆塗り弓」は、1982年に石狩町が実施した発掘調査により確認された32基の墓壇の一つ（GP-46）から出土した副葬品である。

（2）大きさ

全長（現存部）105cm、幅3cm（※発掘現場の計測値）

（3）帰属時期（年代）

続縄文文化前半期（弓の年代：約2000年前）

（4）文化財の状態

4-1) 遺存状態

弓本体の木質部分は失われ土圧により扁平に潰れているが、弓全体に施された漆の塗膜が弓の形状をとどめた状態で残されている。

弓の表面に施された朱色の漆と各所に描かれた文様が色相とともに鮮やかに残されている。

4-2) 弓の形状・構造

- ・出土状況では緩やかなM字状であるが、複数の折損部から本来の形状に歪みが生じているとみられる。

- ・樋とみられる溝状の痕跡がある。

（弓の木質部分に入れる細長い溝。塗膜の表面に痕跡が観察されたため、本資料が弓と推定される根拠となった。）

- ・弓の両端部の弓弭の構造は不明

4-3) 弓全体の色

朱色（残された漆の皮膜：外面が朱色、内面は黒色）

4-4) 装飾技法

- ・黒色および茶色により特徴的な渦巻文（巻き込みにトゲ状の突起がつく）を線描により施す。

- ・弓の11箇所により幅3～5cmで細い糸を巻き付け、その上に漆をかけ、さらに糸巻きした帯状部分に文様を描いたとみられる。
- ・文様の色合いには黒色と茶色の2色がみられ、その配色は弓の半ばから両端に向かい茶色と黒色に分かれている。図1の左側5箇所では茶色のみ、右側の5箇所では黒色のみを用いて描き、中央1箇所の文様では茶色・黒色の2色を用いて描いている。

(5) 保存処理の状態

保存処理は実施済。ポリエステル樹脂をアクリルケースに注ぎ、その中に弓を包埋した状態。
弓の両面を観察することが可能である。

(6) 文化財としての価値

- ・紅葉山33号遺跡出土の漆塗り弓は、続縄文文化前半期の墓から出土した副葬品である。全体に朱色の漆を塗り文様を描いて精工に仕上げた「飾り弓」で、当時の儀礼内容を示す貴重な資料である。
- ・弓の木質部分は失われているが、表面に塗られた塗膜部分が残存し、全体の旧形状を復元できる状態で、加えて色相・文様も良好に残されている。特に、弓の各所に巻き込みにトゲ状突起のある渦巻文様を描く構図は、全国的にも大変希少な例である。
- ・続縄文文化前半期の漆製品は数少ない。北海道では、縄文文化後期から晩期初頭にかけて漆製品の最盛期、縄文文化晩期から続縄文文化前半期にかけては衰退期を迎える。当該資料は縄文・続縄文文化期を通じた北海道の漆文化の最終段階を示す資料として歴史的価値を有するものである。
- ・当該資料に観察される漆製品の製作技術・装飾技法・文様の特徴は、続縄文文化前半期の石狩地域と他地域との文化的交流を考えるうえでも重要である。



写真8 紅葉山33号遺跡 墓壇（GP-46）から出土した「漆塗り弓（文様入り）」

左：全体 右：弓の文様 （画像：石狩町教育委員会 1984）



図1 「漆塗り弓」の図 （画像：石狩町教育委員会 1984 別図）